慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	太田正孝著 改訂増補 国民予算論
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.6 (1925. 6) ,p.941(137)- 943(139)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250601-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

コンシデランの學說を剽竊せし所か、却て反對にコンシデランの「社會主義原理」に對する反駁者たる感がある』（註二十三）と言へるは吾人の容易に首肯し得る所である。

吾人は、チェルケソフ、ラブリオラ、ラムウス等が單に斷片的章句の相似に眩惑せられ、加ふるに不周到不徹底なる考證に禍ひせられて、共產黨宣言を以てコンシデランの「社會主義原理」の剽竊なりと速斷せし輕舉を彼等の爲めに悲むものである。彼等無政府主義者——ラブリオラは社會民主主義者であるが、寧ろ無政府主義に傾いてゐる——が一フリエ主義者の著作を借用して故意に其政敵たるマルクス—エンゲルスを毀損し、以て萬一を僥倖せんとするは徒に人に依て事を成すものと言ふ可きである。予はGoetheのFaustの一節を想起する。

Wenn Ihr's nicht fühlt, Ihr werdet nicht erjagen,
Wenn es nicht aus der Seele dringt, Und mit urkräftigen Behagen,
Die Herzen aller Hörer zwingt.　（終り）

註一　Tscherkesoff—Die Urheberschaft des Kommunistischen Manifestes. S. 11-12.
註二　Kautsky—Das Kommunistisch Manifest ein Plagiat. Neue Zeit 24 Jahrg. 2. Bd. 695.
註三　Kautsky—a. a. O., S. 697-698.
註四　Marx—Die Heilige Familie" Aus dem Nachlass von Marx und Engels, 2. Bd. S. 131.
註五　Engels—Die Entwicklung des Sozialismus von der Utopie zur Wissenschaft. S. 21.
註六　Kautsky a. a O, S. 698.
註七　Marx—Das Elend der Philosophie S.110.
註八　Marx—Das Kommunistische Manifest. S. 53.
註九　Adler, Georg—Die Anfänge der Marxschen Sozialtheorie. Festgabe für Wagner. S. 19
註十　Marx—a. a. O, S. 31. 37.
註十一　Marx—a. a. O, S. 25.
註十二　Salzbach—Die Anfänge der materialistischen Geschichtsauffassung. S. 51

註十三　Picard, R—L'idee de lutte de classe au XVIII. siècle. Revue d'économie politique Tome 25. p. 624
註十四　Rohstein Th.—Verkünder des Klassenkampfes vor Marx. Neue Zeit 26. Jahrg. I. Bd. S. 837
註十五　Plechanow—Über Die Anfänge der Lehre von Klassenkampf. Neue Zeit 21. Jarhg. I. Bd. S. 276
註十六　Muckle, Friedrich—Saint-Simon und die ökonomische Geschichtstheorie. S. 8
註十七　Adler, Georg—Die Anfänge der Marxschen Sozialtheorie Festgabe für Wagner. S. 18.
Grünfeld—Lorenz von Stein und Gesellschaftslehre.
Földe, Béla—Bemerkungen zu dem Problem Lorenz Stein—Karl Marx Conrad's Jahrbücher. Bd. 102. S. 289.
註十八　Considérant—Principes du Socialisme p. 21.
註十九　Considérant—ibid. p. 20.
註二十　Kautsky—a. a. a. O, S. 698.
註二十一　Marx-Engels.—Das Kommunistische Manifest. Kautsky's Ausgabe. S. 45.
註二十二　Marx-Engels—a. a. O, S. 52-54（櫛田民藏氏譯借用）
註二十三　Kautsky—a. a. O, S. 702.

附記　本論文起稿に際し增井幸雄先生は前記コンシデランの原本を御貸與下さつた、ここに厚く先生の御好意を謝する次第である。

新刊紹介

金融の基礎知識

高橋龜吉著　菊判四一八頁
定價金三圓　東洋經濟新報社發行

改訂增補 國民豫算論

太田正孝著　四六判本文二九五頁
附錄七二頁　定價二圓五十錢
報知新聞社發行

金融に關する研究は從來多く銀行論の一部に委ねられて居り、隨つて金融を金融機關の方面から觀測することに重きを置く風であつたが、近時金融を一の經濟現象として、又は經濟的事實として取扱ひ、斯くて之に對する完全なる研究の行はれるに至つたことは經濟學研究の一新風潮として、吾人の喜ぶ所である。

高橋氏の新著亦金融に對する學術的研究の一を以つて、見る可きものである。本書の構造を見るに、先づ金融資金なるものゝ性質を明にし、

金融資金と其需給關係幷に信用の職能を說いて金融の依つて行はれる所以を述べ、次いで金融市場に就て略說した後、金融の統制に就て、第六、第七、第八の三章を割いて、詳細に記述してある。思ふに本書の中心を爲し、又讀者に大なる感興を與へるのは、此部分であつて、金融の時に逼迫し、時に緩和する所以、此趨勢に對して行はれる統制、從來金に依つて統制されるを常とした金融が他に統制の標準を求めんとするに至れる事情が最も正確に示され、稀れなる例を除き、全編を通じて、何等特種の專門的術語が用ひられず、何人にも理解される日常當用の語を以つて金融の理論と應用とが說明されて居ることは、本當の特色として、推稱すべき所である。

太田博士の著はす「國民豫算論」は大正十二年二月初版發行以來版を重ねること十數次、今回改訂增補されたものが即ち上記の大正十四年版であつて、大正十四年度の豫算に例を取つて、說明を試みた所に「大正十四年版」の意義が現はれる。從來豫算殊に我國の豫算の不可解であることは、一般の公評であつて、豫算案議定の任に當る貴衆兩院の議員中に於ても、豫算を理解する者は一部少數の所謂財政通に限られて居り、其財政通なる者も豫算面に於ける數字の排列を心得て居るだけであつて、此數の由つて來る經濟財政上の根本的知識に缺ける所なきを得なかつた。斯くて豫算は面倒なる數字として、國民に顧みられざるの嘆なきを得なかつたのであるが、斯の如きは畢竟豫算の數字に生氣を與へるだけの說明がなく、活氣を加へるだけの評論の行はれなかつた結果である。太田博士の「國民豫算論」は上記の點に於て、我國學界の缺陷を充すものであつて、豫算の編成から、其施行を經て、決算に至るまでの一切の科程が一々我國の實際に徵して、平易に說明され、一讀能く豫算の何ものたるやを理解せしめる。第四日本豫算史は明治初年以來最近に至るまで、我國の財政が如何に發達したかを知るに便利であり、附錄として豫算に關する重要法令が網羅されて居る。英國大藏省官吏ヒルトン、ヤング氏曩に「英國々民財政制度」を著して、英國財政の通俗的說明を試みたが、太田博士の國民豫算論は實にヤング氏の著書に比す可きものである。

（堀江歸一）

理財學會記事

△四月二十七日

野村兼太郎教授の歸朝歡迎會を萬來舍洋閣に於て開催せり。席上幹事の歡迎の辭、野村教授の劔橋大學生活談、並に氣賀教授の滯歐述懷談等あり、一同歡談に時をうつし、午後九時閉會す。當日出席者左の如し。

野村、氣賀、金原、津田、高木、平井諸教授和田、濱谷、櫛原（三年）野村、奥田、血脇、小林、寺本（二年）細居、森、久野、有野、塚本、上月、新川、內田（一年）各幹事。

△五月十三日

理財學會春季大會を午後一時より大講堂に於て左の如きプログラムの下に開催せり。聽講者約四百名にして盛會なりき。

一、經濟上より觀たる中世の意義　野村兼太郎氏

二、農工商に於ける富の生產に就いて　那須皓氏

三、富の原因の研究としての人口論と貧の原因の研究としての人口論　高橋誠一郎氏

四、財政學の民衆化　太田正孝氏

尙大會終了後萬來舍にて講師諸氏を招じて晩餐會を開催す、出席者次の如し。

那須、太田、高橋、三邊、金原、伊藤、平井諸氏。並に濱谷（三年）小林、血脇、野村、武井、奥田（二年）久野、塚本、有野、細居、森（一年）諸幹事。